

宮城県学校体育研究協議会の取組

宮城県学校体育研究協議会を紹介します。略して「学体協」と呼んでいます。宮城県の学体協には4つの団体が加盟しています。宮城県連合小学校体育研究部会、宮城県連合中学校保健体育研究部会、宮城県高等学校保健体育部会、宮城県女子体育指導者連盟の4団体です。事務局は小学校、中学校、高等学校が2年ずつ輪番で担当します。24・25年度は小学校の担当です。学体協としての主な活動は、毎年研究大会を開催していることです。宮城県を7つの地区に分け、輪番で開催しています。高等学校を中心に近隣の小学校、中学校とで3つの学校が授業を提供します。3つの校種の授業提供ということで、参加者も幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、行政関係者と様々です。

メールマガジン続き

23年度は、予定していた地区の学校が東日本大震災で被災したため、残念ながら中止にせざるを得ませんでした。24年度は、10月23日（火）に第46回宮城県学校体育研究大会及び平成24年度宮城県学校体育指導者研修会として仙台市立富沢小学校を会場に開催しました。宮城県立視覚支援学校、仙台市立西多賀中学校、仙台市立富沢小学校が授業を提供しました。富沢小学校は、仙台市指定の健康教育推進校の公開研究会と抱き合わせで開催したので、多くの参加者がありました。例年だと、午前中が授業、午後に全体会（授業検討会も含めて）という形式で実施していたのですが、今回は富沢小学校の公開研究会ということもあり、授業検討会は分科会形式で行いました。小学校が5つ、小6と中学校で1つ、高校が1つと7つの分科会を設けました。それぞれの分科会で熱心な検討会が行われました。

学体協は、「健康の保持・増進と体力の向上を図りながら、進んで運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたり運動に親しむ資質や能力を育む体育学習」、富沢小学校の公開研究会は、「自ら健康な体づくりに取り組む児童の育成～望ましい食習慣・生活習慣を意識し、進んで運動する子どもを育てる健康教育を通して～」という研究主題で取り組みました。宮城県立視覚支援学校は会場などの関係で、ビデオによる授業提供になりました。「弱視・全盲生徒が楽しめる体育授業」というテーマで、ふだんの授業を1単位時間のビデオに編集して発表しました。西多賀中学校は、「生徒が主体的に取り組むための学習形態及び指導法の工夫」というテーマで、「ハンドボール」の単元を、富沢小学校での持ち込み授業という形で発表しました。富沢小学校は、1年生は、体づくり運動「とみざわランドで遊ぼう」、2年生は、食育「何でも食べて元気になろう」、3年生は、器械運動「マット運動」、4年生は、表現運動「出発！宇宙たんけん」、5年生は、保健「心の健康」、6年生は、ボール運動「サッカー」でそれぞれ発表しました。午後からは、宮城県女子体育指導者連盟によるダンス講習が行われ、参加者が女体連の先生方による指導で楽しいひとときを過ごしま

した。その後、それぞれの会場に分かれて分科会を行い、最後に全体会を行って終了しました。

宮城県では、学校自体が使えなくなり他に間借りしている学校、校舎や体育館がまだ使えない学校、校庭に仮設校舎を建てたために校庭がなくなった学校など様々です。復旧のめどが立っていない学校もまだまだあります。そんな中で、宮城県の教員は、子供たちの遊び場の確保、体育の授業や運動の仕方の工夫などで、できるだけ子供たちの体力の向上、健康の維持・増進に努めています。さらには、心の健康、心のケアも重大な課題になっています。学体協としても、23年度は研究大会が中止になったものの、24年度は実施することができました。来年度は47回目となる伝統あるこの研究大会を通して、宮城県の子供たちの健康な体づくり、心の育成に努めていくことを改めて決意したところです。